

㊦ B—61 労働衣服の研究（農作業衣の材料が土壤からうける影響についての実験）

新潟大 玉木 シゲ

1. 昭和35年本学会において、農作業衣の損傷について、特に各種材料の着用実験および土壤、摩擦、洗滌、日光の影響等の基礎実験結果を一部発表した。その中で農作業衣材料が土壤からうける影響の大きいことがわかり、その問題について、さらに研究を深め、昭和36年から38年にわたり継続的に行なったものである。農作業衣の中で古くから用いられ、しかも土壤と最も関係の深い藍染紺木綿については長期間にわたり、また昭和30年農作業衣用に生産されたビニロン縞については、前者と同時に実験して、その影響を比較した。ビニロン紺、樹脂加工藍染紺木綿についても実験を行ない、その性能や耐久力を比較研究した。

2. 材料は藍染紺木綿、ビニロン縞、ビニロン紺、樹脂加工藍染紺木綿。土壤は水田の作土を用いた。一定量の作土の中に材料を浸漬した。期間は1カ月から2年5カ月。第一回目は三地域の作土を用いて藍染紺木綿とビニロン縞を同時に1カ年間浸漬放置した。その結果木綿は、その原形が全く無くなり、ビニロン縞は大きな変化はなかった。この結果に基き紺木綿について1カ月毎にその変化をしらべた。ビニロン紺は損傷形態や耐久力に

意外な結果が現われた。

3. 紺木綿は、土壤中に放置すれば数カ月で使用に堪えず、ビニロンは耐久力が非常に大きいが、他の繊維を混紡、交織する場合に大きな問題のあることを認めた。